さいたま市民レポート for Sustainable City

saitama shimin report
No.28

編集責任　さいたま市議会議員　**土井裕之**

1971年,旧浦和生まれ。川口北高校卒業。1999年より浦和市議を2年勤め、3市合併の際，辞職。2003年さいたま市議に当選。無所属で活動。
■所属会派：無所属の会　■所属委員会：建設水道／市民生活・安全対策

発行日　2006年1月31日

発行元　土井裕之　〒336-0042　さいたま市南区大谷口2423
tel　048-873-1965　fax　048-873-3446
E-mail　doi@doih.net　HP　http://doih.net

STEPS 活動履歴　1月18日～1月28日

1.18 〈研修〉日経グロカル　三位一体改革
1.19 〈駅立〉武蔵浦和駅西口
〈研修〉無所属の会…生活保護／図書館
〈研修〉関西学大丸の内講座「日本の財政状況」
1.20 〈駅立〉南浦和駅東口〈会議〉無所属の会
〈懇談〉南区自治連新春懇談会
1.21 〈相談〉市民
1.24 〈駅立〉南浦和駅西口〈懇談〉一柳会
1.25 〈傍聴〉議運・理事会〈懇談〉市民
1.26-27〈視察〉松山市「安全で安心なまちづくり条例」
1.28 〈懇談〉市民

FROM EDITOR

「諸行無常」という言葉に思い入れがあります。仏教用語のこの言葉、読んで字の如くですが、「現実の存在は、姿も本質も常に流動変化するものであり、一瞬と言えども存在は同一性を保持することができない」こと（「wikipedia」より）。つまり、つくられたものは常に変化をしているというものです。毎日の生活の中で、この言葉の真実性を感じることがしばしばあります。自分の体も心も考え方も、諸行無常です。ところでこの言葉、ライブドアの堀江さんの座右の銘だそうですが、堀江さんを象徴しているのかもしれません。ライブドアの事件については、私のHP上の「今週の言葉」に私の考えを記していますので、ご参照いただけましたら幸いです。

2月議会が始まります。

2月14日（火）からの予定です。
本会議初日、代表質問、各常任委員会での議案審議、予算特別委員会、本会議最終日が予定されています。

詳しくは、**議会事務局議事課**（048-829-1753）まで。

http://doih.net
ホームページをご覧ください。

視察 松山市　市民生活・安全特別委員会 安全で安心なまちづくり条例

1月26日午後、市民生活・安全対策特別委員会の視察に参加。視察先は、愛媛県松山市。対応は、市民参画まちづくり課職員2名ほか。

「松山市安全で安心なまちづくり条例」について、担当職員に説明を受けた後、質疑応答。以下、その概要。

平成11年、番町という地区で若者200人が暴動を起こすという事件が発生。暴走行為や落書きなど、商店街における若者の暴走は、それまでも継続してあったが、以前にも増して看過できなくなった。
そこで、市ではH13年に「まちづくり市民懇談会」を設置。H14年に施行。

以来、条例に基づく「まちづくり会議」での議論や住民による「落書き消し隊」、ガーディアンエンジェルを招くなど、多角的な取り組みを続けている。

その結果、昨年は暴走行為も無くなり、若者のタムロもほとんど無くなったという。

この条例の特徴は、若者の暴走行為を土台としている点である。
若者の行為を諌めるだけではなく、若者のエネルギーの発散の場としてスケボーや、ストリートライブパフォーマンスなどをできる場所を行政や商店街などが提供したことも、事件の発生を未然に防ぐことにつながっているようだ。

担当している所管は、
市民参画まちづくり課で職員は2.5人（他の事業も兼務しているため端数）。
警察からの不審者情報をHPに載せて、情報提供をしている。

今後の課題は、
・補助金を支出している
　モデル地区自身の活動の自立。
・こうした活動の全市的普及。
・関係団体等の連携。　　など

さいたま市での「安全安心まちづくり条例」

すでに行政内での立案、市民へのパブリックコメントを終え、最終調整段階。
2月の議会に提案される予定。
先に形を作るが、施行後、魂を入れるべく、協働の中身を作っていく方向性。

松山市の概要

現在人口は約**51**万人。
H12　中核市（人口30万以上の自治体）
H17.1.1　周辺1市1町を編入合併

財政規模は全体で約**3200**億円、
一般会計は約**1400**億円。
自主財源は全体の歳入の**53**%。
産業では、観光に力を入れている。
道後温泉は有名だ。

★水不足が過去数年間生じた。
議会にはこの対策のための特別委員会が設けられた。

現市長の方針
「坂之上の雲」を軸としたまちづくりを目指す。「坂之上の雲」とは故・司馬遼太郎の小説で、明治時代を背景として松山市に由緒のある人物を描く。

〔松山市HPより〕
司馬遼太郎さんが、正岡子規と秋山兄弟の3人の生き方を通して訴えている『夢』や『理想』や『目標』を持って、前向きに行動していく素晴らしさを、みんなで共有し、そこに込められた作者のメッセージを主人公達の気概を通して読み取り、個性のある魅力的なまちづくりを市民参加で進めていきます。